

6月19日（金）異文化体験シミュレーション（慶應義塾大学 吉田友子教授）

- 日時 平成27年6月19日（金）15:30～17:00
- 演題 Cross Culture Simulation
- 講師 慶應義塾大学商学部 吉田友子 教授（参加生徒人数 24名）



【慶應義塾大学 吉田教授によるワークショップ】



自国のルールに則ってゲームを進める

派遣された使者は、相手国の様子を観察し、実際に参加してみる



異文化に入った時に感じた気持ちや、相手を理解するための方法について話し合う

【ご講義の内容】

□異文化体験シミュレーション

生徒たちは、 α 国と β 国に分かれ、それぞれの部屋で各国の活動（ α 国：バファバファという遊び β 国：カードによる家畜の取引）を行う。お互いの国に人を派遣し、観察、参加、報告することで、疑似的な異文化体験をする。最後のディスカッションから、お互いの国の印象、参加した時に感じた感情、どのように理解していったかを知る。

【生徒のディスカッション】

□新しい文化に入っていく時の気持ち

- ・ 相手の国に入っていく時は怖かった。
- ・ 仲間外れになった気分だった。
- ・ 自分の国と相手の国とでは、人との距離感が違った。
- ・ 失礼なことをされたと感じた。
- ・ 自分の国に戻ったときには安心感があった。
- ・ 相手国のルールが少し分かった時には嬉しかった。

□どうすれば相手を理解できるのか

- ・ 相手の国の人たちが共通してやっていることを真似してみた。
- ・ 観察するだけでなく、参加することで理解できたことも多かった。
- ・ 何も知らずに参加するより、事前に情報を知ってから参加する方が理解しやすかった。
- ・ 相手国で見たり経験したりしたことを、自国で共有することで更に知識が深まった。

【吉田教授より】

新しい国で仲間外れになったと感じるのはよくあることだが、たとえ理解できなくても落ち込まずに、ゲーム感覚でいろいろなパターンを試し、楽しむことが大切。失敗を恐れず、どんどん参加するべきである。

人との距離感や、何が失礼で何が丁寧なのかということも、国や文化によって異なる。もし、異国の人々の礼儀がないと感じたとしても、何故そうなのかということを考えてみるとよい。

今後は海外に行った時だけでなく、例えば大学に入ったときにも、その場所の文化に出会うことになると思う。もし戸惑うことがあった時には、今日の講義のことを思い出してもらえたら嬉しい。